

令和6年度 根室管内教育推進の重点
テーマ「しなやかにたくましく生きる子どもの育成」
～子どもの可能性を引き出す教育への挑戦と覚悟～

1 はじめに

根室管内の教育関係者の皆様においては、昨年度、「しなやかにたくましく生きる子どもの育成～子どもの可能性を引き出す教育への挑戦と覚悟～」をテーマとして「令和5年度の根室管内教育推進の重点」に基づき、それぞれのお立場で管内教育の振興・発展に尽力していただき感謝申し上げます。

また、子どもたちが安全・安心で、充実した学校生活を送れるよう、各関係機関と連携を図りながら、子ども一人一人の学びの保障に努めていただき、誠にありがとうございます。

これより、令和6年度根室管内の教育推進のテーマ及び重点について、説明いたします。

昨年度、教頭・主幹教諭の皆様には、管内教育推進のテーマや重点に基づき、確かな学力の定着、人材育成、異校種間の連携などについて、校長先生の意を体した組織的な取組となるよう、リーダーシップとマネジメントを発揮することをお願いしてきたところです。

今年度も、昨年度の成果を基盤として、取組をさらに浸透し、一層の質の向上を図っていただくよう、テーマ「しなやかにたくましく生きる子どもの育成」を継続するとともに、重点の具体的項目の一部を改訂し、お示しすることとしました。

教頭・主幹教諭の皆様には、重点と改善に向けた具体的項目を参考に、各地域や学校の実情、子どもの実態を踏まえた創意ある取組を進めていただくようお願いいたします。

2 令和6年度根室管内教育推進のテーマ・サブテーマ

では、令和6年度の根室管内教育推進のテーマ及びサブテーマについて改めて説明いたします。

3 令和6年度根室管内教育推進のテーマ・サブテーマの設定(思い)

最初にテーマ「しなやかにたくましく生きる子どもの育成」についてであります。

VUCA時代の到来により、子どもたちを取り巻く環境（社会）は、まさに先行き不透明な社会を感じながらの生活を強いられております。

テーマの「しなやか」や「たくましく生きる」は、こうした社会的背景から、どんな場面に直面しても柔軟に対応でき、夢や目標の実現に向けて挑戦し続ける強い人間であってほしいという、北海道が目指す教育の基本理念である「自立」と「共生」を踏まえております。

また、このテーマには、昨年6月に閣議決定しました「教育振興基本計画」のコンセプトである「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を踏まえ、“子どもたち一人一人が「生きる力」を確実に身に付け、持続可能な社会の創り手として活躍できるように”という思いも込められております。

次にサブテーマについてであります。

テーマに掲げた子ども像の実現に向けては、根室管内におけるそれぞれの地域で生活する子どもたちが、地域の学校で学ぶことができ心からよかったと思えるよう、地域の特性を踏まえた独自性のある教育を実現させることが大切です。

私たち教育関係者は、常に地域と向き合い、挑戦心や責任と覚悟をもって教育活動に取り組む決意が必要であると考えており、サブテーマを「子どもの可能性を引き出す教育への挑戦と覚悟」と設定しております。

4 令和6年度根室管内教育推進の重点

次に、重点につきまして説明いたします。本年度の重点については、昨年度の9月と1月に実施しました管内教育推進の重点に関わる取組状況の評価アンケートの結果を基に、教育の動向や管内教育の課題等を踏まえ、取り組む必要性の高い内容を厳選し、それぞれ3つの重点に2つの具体的項目を位置付けております。

これより、それぞれの重点について説明します。

5 (1) 重点1「確かな学力を育む機動的な組織体制による取組の深化」

重点1「確かな学力を育む機動的な組織体制による取組の深化」についてです。

学校教育において、子どもたち一人一人の可能性を引き出すためには、子どもの見取り・評価や児童生徒一人一人に学級集団の中で帰属意識を高め、自己肯定感をもたせる必要があります。

そのため、重点を「確かな学力を育む機動的な組織体制による取組の深化」とし、「①子どもの変容を即時的に評価する継続的な検証改善サイクルの確立」「②子ども一人一人の個性や多様性を認め合う支持的な風土で学びが展開される環境の整備」の2点を具体的に推進する項目として申し上げます。

6 (1) 重点1—①

① 子どもの変容を即時的に評価する継続的な検証改善サイクルの確立

管内においては、各学校において検証改善サイクルの確立に向けた取組が進み、アンケートにおいても9月から1月にかけての評価値が、小学校を中心に伸びが見られるなど成果が現れております。

一方で、令和5年度全国・学力学習状況調査質問紙調査において、「授業がよく分かる」と回答する児童が増加し、中学校では全国を上回る状況であるにもかかわらず、全国の平均正答率との差が小学校で広がったり、中学校では大きく下回ったりしている」状況が見られることから、高等学校、特別支援学校においても、こうした義務教育段階の児童生徒の背景を理解した上で、今後は、検証改善サイクルに関連する取組自体が目的化することなく、各学校の取組がより実効性のあるものになるようにしていくことが必要です。

そのため、すべての学校で、

- ・「子どもの変容を即時的に評価する継続的な検証改善サイクルの確立」

小中学校においては、

- ・「単元等の短期的なPDCAサイクルによる教育課程の改善」

高等学校、特別支援学校においては、

- ・「単元・題材レベルでの授業改革の推進」

などについて取組を進めていただくようお願いいたします。

7 (1) 重点1—②

② 子ども一人一人の個性や多様性を認め合う支持的な風土で学びが展開される環境の整備管内においては、各学校において児童生徒に帰属意識を高めたり自己肯定感をもたせたりする取組が進み、アンケートにおいても9月から1月にかけての評価値が中学校及び高等学校・特別支援学校を中心に伸びが見られるなど成果が現れております。

一方で、一人一人の子どもを主語にした学校教育を推進するためには、教師主導による授業からの転換を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革、実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習の充実において、1人1台端末やBYODにより整備した学習端末を効果的に活用するとともに、協働的な学びが展開できる支持的風土を醸成していくことが必要です。

そのため、

- ・ICTを有効に活用しながら個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ・望ましい学習・生活習慣の確立による安心して学べる学級づくり

などについて取組を進めていただくようお願いします。

8 (2) 重点2「子どもの学びを支え、『地域の先生』として根室管内の発展に寄与する人材の育成」

次に、重点2「子どもの学びを支え、『地域の先生』として根室管内の発展に寄与する人材の育成」についてです。

学校教育において、学びの機会を保障し質を高める環境を確立できる新たな教師の学びを実現するためには、教師が自ら専門性を高めるため主体的に研修に打ち込むとともに、家庭や地域と連携しながら教育活動を推進できる人材を育成する必要があります。

そのため、重点を「子どもの学びを支え、『地域の先生』として根室教育の発展に寄与する人材の育成」とし、「①実践的指導力や専門性の向上を図り、主体的に学び続ける教員の育成」「②家庭や地域と連携しながら子どもを育て、地域から信頼を得られる教員の育成」の2点を具体的に推進する項目として申し上げます。

9 (2) 重点2—①

① 実践的指導力や専門性の向上を図り、主体的に学び続ける教員の育成

管内においては、教員が実践的指導力を高め専門性を向上するための研修が計画的に進み、1月のアンケートにおける評価値が、小学校及び高等学校・特別支援学校で高い数値にあるなど成果が現れております。

今後は、ミドルリーダーの育成や教師が指導力を高めるため主体的に研修に打ち込める校内体制の一層の整備が必要です。

そのため、

- ・教員一人一人のよさを伸ばす対話に基づく研修の奨励
- ・実践的指導力や専門性の向上を実感できる組織的な校内研修

などについて取組を進めていただくようお願いします。

10 (2) 重点2—②

② 家庭や地域と連携しながら子どもを育て、地域から信頼を得られる教員の育成

管内においては、将来地域で活躍する子どもを育てるという観点から、子どもの教育に直接携わる教職員が地域のことを深く知り、地域ぐるみで家庭や地域住民と連携しながら子どもの成長を支える姿が見られ、アンケートにおいても義務教育学校及び高等学校・特別支援学校で顕著に評価値が高くなるなど成果が現れております。

今後は、各学校において教師の資質能力の向上により質の高い教職員集団の実現を図るとともに、そうした学校の状況を広く家庭・地域に公開するなどして、地域から一層の信頼が得られるようにすることが必要です。

そのため、すべての学校で、

- ・家庭の理解に基づく、1人1台端末を活用した授業と関連を図った家庭学習の工夫
- 小中学校においては、
- ・グランドデザインなどによる家庭や地域との「目指す子ども像」の共有
- 高等学校・特別支援学校においては、
- ・スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの家庭、地域及び小・中学校等との共有
- などについて取組を進めていただくようお願いいたします。

11 (3) 重点3「全ての子どもが地域に根ざした学びのよさを実感できる教育の充実」

次に、重点3「全ての子どもが地域に根ざした学びのよさを実感できる教育の充実」についてです。

学校教育において、子どもたち一人一人が地域の構成員としてふるさとに愛着や誇りをもつためには、学校区として連携の図られた教育や地域で学ぶよさを実感できる教育を展開する必要があります。

そのため、重点を「全ての子どもが地域に根ざした学びのよさを実感できる教育の充実」とし、「①目指す子ども像を共有した異校種間の連携及び一貫教育の推進」「②地域の教育資源を活用した教育活動の整備、ふるさと教育の推進」の2点を具体的に推進する項目として申し上げます。

12 (2) 重点3—①

① 目指す子ども像を共有した異校種間の連携及び一貫教育の推進

管内においては、異校種間での授業を通じた児童生徒の交流が進み、アンケートにおいても小学校及び高等学校・特別支援学校で評価値の伸びが大きく見られ、数値も高くなるなど成果が現れております。

一方で、子どもたちの学びに対する意欲や主体的な学びの姿勢が、学年が上がるにつれて低下する状況が見られることから、今後は、幼保小連携、小中連携、中高連携等により、系統的な指導を行うことが必要です。

そのため、

- ・地域で育てる子どもの姿の異校種間での共有
 - ・異校種において育ってきた力の理解に基づく授業の工夫
- などについて取組を進めていただくようお願いいたします。

13 (2) 重点3—②

② 地域の教育資源を活用した教育活動の整備、ふるさと教育の推進

管内においては、身近な地域の自然環境や歴史、伝統、文化、産業等について理解を深めるための授業が展開され、アンケートにおいても各校種で高い数値となっており、特に9月から1月にかけての評価値の伸びが義務教育学校で顕著に見られるなど成果が現れております。

今後は、子どもたち一人一人に地域の構成員としてふるさとへの愛着や誇りを育むとともに、学校教育と社会教育の連携により、地域の将来を担う人材や地域に貢献できる人材を育成することが必要です。

そのため、

- ・家庭や地域の協力を得ながら実施する探究的な学習の推進
 - ・コミュニティスクールの推進による地域の教育資源の共有
- などについて取組を進めていただくようお願いします。

14 共通重点事項

次にそれぞれの重点の具現化に向けて特に考慮していただきたい視点である「共通重点事項」について説明します。

- ・「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革」
- ・「子ども一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実」
- ・「家庭・地域・関係機関と連携した学校の安全・安心の保障」の3点については、どの学校種においても緊要な経営課題です。

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革」においては、真の授業観の転換を図ることを目的に、ICTを有効に活用し、教師が個々の子どもの学びを把握しつつ、学びの主導権を子どもたちに委ねることにより、子どもたちが自らの学びを自分事として捉え、自発的に他者と関わりながら学びを深めていく学習活動などの充実を図ることを、

「子ども一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実」においては、ICTの活用等による障がいの状態等に応じた指導の工夫や就学支援、学びの場の変更等に係る進学指導、キャリア教育、進路指導等の充実を、

「家庭・地域・関係機関と連携した学校の安全・安心の保障」においては、昨年度改定された生徒指導提要に基づき、日常的に危機管理マニュアル等の改善を図るなど、各学校における危機管理意識の向上を図るよう、主体的に取組を進めていただきますようお願いします。

15 終わりに

以上、令和6年度の根室管内の教育推進に当たり、重点的に取り組んでいただきたい内容を説明いたしました。

今回設定しました重点については、各学校が教育目標の実現に向けて主体性を発揮し、教育の推進を図ることができるよう、その要素を示しております。

教頭・主幹教諭の皆様には、地域で育つ子どもが、その地域での学びを通して成長し、社会の変化に対応し、生涯に渡って生き抜く力を確実に身に付けることができるよう、学校運営の中核を担うリーダーとして、力を発揮していただくことを期待しています。

教育局としましては、道立学校の教育指導監や義務教育指導監、指導主事、社会教育主事による学校訪問や各種研修事業を通して、各学校の支援に努めてまいります。

根室管内の子ども一人一人のウェルビーイングの実現に向けて、皆様方お一人一人と、これまで以上に連携を密にしながら取り組んでまいりますので、一層の御理解と御協力をお願いいたします。